

平成 29 年 5 月 25 日

南の風 234

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

先日、U-13ブロックエンデバーの関係者の方々と話した時のことです。

最初の話題は、コーチのリーダーシップについてです。まず一般論（高校以上）です。

ある方が、「日本では競技を問わず、支配型・強権型リーダーシップの指導者のもとで、選手たちを鍛える練習法を採用しているところがあるが、そういうやり方だとある程度勝ち進むが、優勝することは難しいと思う。なぜなら、支配型・強権型リーダーシップのもとでは、選手が自主的に考え、判断し、行動する機会を奪っていることが多いから。もし優勝することができたとすれば、それは市場が未成熟だったに過ぎない。市場が未成熟とは、参加しているチームが少ないだけでなく、戦略・戦術の研究が進んでおらず、練習に科学的視点が欠けている場合である。」と言います。

他の指導者の方からも、「支配型・強権型のリーダーシップの指導者は、聞く耳を持つ人が少ないのでは。」といった意見や、「自分が選手時代に経験し、成功したやり方から離れられないのでは。」と言った話も出ました。

私も大筋で同じ意見です。支配型・強権型の指導者は「俺についてこい！」というタイプの方が多いと思います。以下私の考えです。

こういったリーダーシップは成長過程の一時期には必要だと思います。特に初めてその競技に触れる年代（バスケットボールではミニバス世代）には必要な時があります。右も左も分からない選手に自主性や判断力を求めることは不可能だからです。当たり前のことですが、教えるべきことと、選手が認知し判断して実行することを分けて考えることが大事になります。

次に支配型の指導者の陥り易い傾向として、システムに頼りがちになるということがあります。バスケットボールで言えばフォーメーションに個を当てはめようとする指導法です。私が出会ったバスケットボール指導者の中にも、自分が成功を収めたフォーメーションを、唯一無二のものとして何年も指導し続けた方がいました。このやり方ですと、選手の実態（メンバーが年によって変わる大学からミニのカテゴリー）を把握することなく、始めにフォーメーションありきの指導になり、型が優先され選手が主体的に判断してプレイすることが極端に少なくなります。そうすると型に合わせて個人が練習していくことになり、選手はマニュアルがあれば判断できるが、マニュアルにはない事態になった時にどう対処してよいか分からなくなります。

やはりコーチはミニバス時代から『自分で判断してプレイできる選手を育てる』ということを常に考えて指導していくべきだと思います。それでは、自分で判断してプレイするために必要な練習方法とはどのようなものでしょうか。私は練習計画を作る時に次のことを意識しています。

①積み上げ型の練習形態ではなく、ゲーム再現型練習に重点を置く。

②分解練習の集合体としてゲームをするのではなく、始めにゲームを意識して練習を組み立てる。

この2点は、常盤台時代（前のチーム）から変わっていません。

次号では、①②について具体的に紹介します。